



# 福祉と住環境を考える ふくてっく

2004年1月  
第56号

特定非営利活動法人  
ふくてっく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F Iビル  
TEL/FAX 06-6614-6800 <http://www.osakacity-vnet.or.jp/link/hukuteku/>

二月定例学習会  
平成5年二月1日(土)  
(有)クリス・K・イン  
ター ナショナル 保田  
芳明氏

\* 始めに、交流分析学について簡単に説明する。1957年アメリカの精神科医であるエリック・バーンが創案した人間の行動に関する理論体系の一つであると共に、それに基づいた治療法も含んでいる。交流分析学は、私が実践しているように職場のコミュニケーションや生産性向上に活用されているほか、スクールカウンセリグや医療の現場にも取り入れられている。

治療法としては、例えば胃を患った場合に従前の西洋医学では単にその疾患の治療を目標としたが、それ



## 交流分析

ではその原因を排除することができず、疾患を再発してしまふ。

そこで、「心身一如」という東洋の考え方にもあるように心と身体は一つのものであるという捉え方をし、お互いに影響しあう心と身体を、心へのアプローチとして交流分析を使い、疾患の心的原因を明らかにする事により治療効果を高めている。また医療の場で患者とドクター・ナースとの信頼関係は治療の向上にとって重大な要因ではあるが、必要以上の信頼感に頼心となつて「私は病人、貴方は治す人」と言うように、いわゆる自己責任感や自立能力をそいでしまふ恐れが生じる。このようなことが起こらないよう健全な人間関係作りにも交流分析が使われているが、これは医療の場のみならずあらゆる場面で使われている。交流分析では互いに反応しあっている。

交流分析によるカウンセリングでは、まずエゴグラムテストを行う。ここでは5つの人格が1人の人間の中にあり、簡単な設問に対する回答から、5つの自我状態を把握してそのバランスによって自己分析をすることから、自己への

気づきや、課題解決の方法を探るものである。

「CP」批判的親の自我状態  
自分の考えや価値観を正しいものとしてそれを主張する部分。良心、理想などと深く関連し、規則などを教える反、支配的で命令調、褒めるよりも攻める傾向が高い。

「NP」養育的親の自我状態  
思いやり、同情、寛容さなどの部分で、人を励ましたり世話を焼く側。保護的でやさしいが、度が過ぎると、過保護、過干渉)と、かえって自立心を損んで攻める傾向が高くなる。

「A」大人の自我状態  
客観的事実をもとに、物事を判断する部分。感情に支配されず、合理的かつ理論的で冷静な機能で、知性や理性と深く関連する。

「FC」自由な子どもの自我状態  
親からのしつけの影響を受けず、本能的で感情的・創造的な側。道徳や社会規範に縛られず、快楽を求めて苦痛や不快なことを避け、自己を開放して楽しむ事ができる。

「AC」順応した子どもの自我状態  
本来の子どもの感情や欲求を抑え、親などの期待に沿おうとする、い

## ふくちゃん



「ふくてっくの食前」  
来る人をおはなす、サルも人をおはなす。



「コムネット事業部」  
コムネットをビジネスに活用する。



「あけましておめでとう」  
あけましておめでとう

## 菰野 光



「サマワシ」  
「サマワシ」



「木工部」  
「木工部」

サルづくしのふくてっく

わゆる「いい子」の部分。簡単に妥協してしまつたり、自発性に欠ける傾向がある。

以上、5つの自我の多寡や、そのバランスを折線グラフの形によって、分析を繰り返して行くと、「自分」というものがよく理解できる(気づく)。そもそも解決すべき問題は、「あるべき姿」―「現状」であるから、現状としての自分自身を知ることが、問題解決の第一歩であり、さらに自分がとる行動の心

の中にある因子を知って、その後の行動を変えるよう努めることによって、自分の人生を変えることができる。これが行動療法である。

あなたの今は、たとえそれが思いりの人生ではないとしても、それはだれかに造られたのではなく、貴方自身が創ってきたもの。交流分析学を理解して、是非これからの人生に活かしていただけたら幸いです。

(記 中北 清)

## ふくてっく・有ボ連 合同合宿報告



12月13日(土)～14日(日)  
場所 「塩楽荘」(兵庫県)・高齢者保養交流センター  
参加者 ふくてっく 杉浦・中北・秋岡・後藤・池端・津田・光川・山本・パルコープ南・木下  
V情報センター 在町・松尾

大阪市の施設ということでしたので、古くてこじんまりとした建物を勝手に想像していたのですが、車がアプローチに進入しても建物が全く見えない!敷地の広さにまずびっくりし、建物が立派だったのにも驚いてしまいました。(古い事は確かでしたが・・・)  
早々に「塩楽荘」の今後

の整備に関する仕事に関わられた中北さんから「塩楽荘」についてのレクチャーを受けるべく、会議室に集合しました。2年前に大阪市の同和対策事業として開設された「塩楽荘」ですが、時代とともに世の中が求める「余暇」のニーズからずれた形で、衰退傾向にある現状を何とか転換すべく、問題点と課題を整理した上でなされたいくつかの提案についての説明を受けました。お陰で、「塩楽荘」では大変充実した滞在時間を送ることができたと思えます。

主な目的は高齢者の休養施設ということですが、高齢者に限らず若年層や子供たちも一緒に満たされる時間が過ごせる空間であること、周辺に溢れている自然を如何に利用できるかなどは、「塩楽荘」の問題だけではなくあらゆるで共して考えなければならぬテーマではないかと再認識させられました。

夕食では、ドタキャンが続出したせいで28人分の「塩楽鍋」と「ポタン鍋」を一人で食べるノルマが課せられていましたが、沢山残してしまいました。お鍋になるべく死んでいった猪たちに申し訳なかったです。ごめんなさい。

## 住宅改善士 養成講座報告

翌日は、朝風呂のあと昨日のお話を思い浮かべながら敷地内を散策し、午前3時頃施設を後にしました。途中、柳田邦男の生家に立ち寄り、その近くでもち麦で打った麺を昼食にして、一路大阪へ戻りました。お天気もそこそこ良く、楽しく充実した合宿となりました。

(記 山本 尚子)

2月1・2・3日とATC研修室に於いて、日本アビリティーズ協会主催の住宅改善士養成講座が開催されました。ふくてっくがこの講座を全的に請け負う形で、今年で3回目となります。講師はふくてっくから磯田・清水・小川・後藤・堀淵・畑・杉浦の7名と外部から住友病院の理学療法士の秋野氏です。今回初めて参加したのは、小川・堀淵の両氏で随分頑張っていました。

受講生は北は埼玉県から南は鹿児島県まで、20名が集まり、朝10時から夕方6時までかなりハードなスケジュールで行われたにもかかわらず、皆熱心で充実した3日間でした。我々

## 住宅改修講座報告

西淀川区在宅介護支援センター ソーシャルワーカー 大賀 由佳

西淀川区居宅介護支援事業者連絡会では、各月の連絡会のほかに、メンバーのスキルアップを目的に研修会を企画しています。区在宅サービスセンターは基幹型在宅介護支援センターと



## 定例会のお知らせ

日時	2月 2月7日(土) 午後1時	30分～5時
場所	大阪市立社会福祉センター 会議室	
場	町屋改修による小規模多機能ハウスの実	
学習会	講師 畑 俊治 会長 (株)HATA設計	
代表	現報告	
3月	3月6日(土) 午後1時	30分～5時
日時	3月6日(土) 午後1時	30分～5時
場所	大阪市立社会福祉センター 会議室	
場	講師 澤 温氏 さわ病院院長	
学習会	講師 澤 温氏 さわ病院院長	

事務局は連絡会メンバーに事前にアンケートを取り、住宅改修に関する悩みを聞き取りました。清理事務局側の希望する講演内容になるよう、相談に応じてくださいました。我々がお願いしたのは住宅改修工事見積書の見方、優良施工業者の見分け方等々、なかなか聴く機会のない内容でした。

10月20日(月) 講習会当日。講演をご担当くださったのは後藤秀樹氏。パワーポイントを使用した講義に加え、住宅改修七つ道

事務局より  
大室会員から、ふくてっく10周年を祝して寄付をいただきました。ありがとうございました。



### 痴呆性高齢者をとりまくバリアとは



12月定例学習会  
平成25年12月6日 (土)  
関西医科大学病院  
老人性痴呆疾患センター  
ソーシャルワーカー  
鈴木 美佐 氏

■高齢者の痴呆は、「一度は獲得した知的能力が後天的に生じた脳の器質的な損傷によって、慢性、持続性、時に進行性に低下する状態」と定義されており、それは記憶・記録・思考・判断の障害を中心に、同時に知覚・言語・感情・行動・人格の異常を伴う事も多くあります。

■しかしながら、痴呆性高齢者に対する正しい理解は残念ながら一面的ではなく、そうした誤解や偏見が痴呆性の根元となつています。誤解の代表として挙げら

れるのは以下です。

- ◎年をとってもボケにだけはない
- ◎ボケたもん勝ちやね
- ◎痴呆は専門医でないとかからない病気
- ◎痴呆は専門の施設でない
- ◎痴呆は専門の施設でない
- ◎痴呆は専門の施設でない

●次に◎ですが、痴呆は進行する病気ですから、その段階によって本人は結構つらい思いをしているので、つまり、

- ・初期 忘れることへの不安と抑鬱
- ・中期 解ってもらえない事から生じる興奮や攻撃性
- ・後期 経管、経腸栄養の苦痛など

■次に◎ですが、痴呆は進行する病気ですから、その段階によって本人は結構つらい思いをしているので、つまり、

- ・初期 忘れることへの不安と抑鬱
- ・中期 解ってもらえない事から生じる興奮や攻撃性
- ・後期 経管、経腸栄養の苦痛など

・周辺症状のコントロールは、できない訳ではない。考え様によっては工夫のできる介護だと言う事ができます。

■次に◎ですが、痴呆は進行する病気ですから、その段階によって本人は結構つらい思いをしているので、つまり、

- ・初期 忘れることへの不安と抑鬱
- ・中期 解ってもらえない事から生じる興奮や攻撃性
- ・後期 経管、経腸栄養の苦痛など

から患者の日常生活を聞かれた家族が「独居だから、そんな事わからない。痴呆の診察にどうして内科の薬まで確認する必要があるんですか」と言う例。世界中のどの医者がだつてアルツハイマー型痴呆を完治させる事はできません。内科疾患が管理できていないことにより生じる痴呆様症状もありますから、生活状況を正しく知る必要があるのです。

■◎の専門の施設でなければ、と、受け入れを拒むのは、親切な助言でもないし、まして責任感の表れでもありません。徘徊される方の安全が管理できないと言いますが、外出しない高齢者だけを居所させて外出の自由を保障しないのは人権侵害です。自由に外出できないグループホームはグループホームとは言えません。また、専門医がいなからというのも、専門医のいる施設など非常に少ない状況では非現実的な話です。暴れる方は他の方の迷惑になるというのは、ケアのレベルに問題があるということでもあります。

それには先ず痴呆には原因疾患によるバリエーションがあることを知ることで、アルツハイマー 空間認知の悪さによって、ガラス張りに衝突したり、市松模様の床を高さの違いや物体と認識するなどの不都合を生じる。

- ・若年アルツハイマー 高齢ならベッドさえあればいいケースもあるが、40、50才での発症では座がとれ、デイの利用も可能。症状の経過が早いので住宅改修の必要性が高い。
- ・ハンチントン病 舞踏様運動があつて、住宅改修が必要なケース。早期発症がある。
- ・血管性痴呆 身体麻痺を伴う。健側、麻痺側をよく見極めた対応が必要。
- ・LBD パーキンソン症

制度、年金制度と様々な窓口がありますが、どの制度をいつから適用できるか、たつた1年の差が大きな差に繋がるのです。

また、多くの場合、年齢が若いほど進行は早く、身体機能の低下した期間が長くなりますから、ここで誰と暮らすかをよく考えて住宅改修を施す事が大切です。晩発型では逆に進行は緩やかですから、住居の改造を急ぐ必要もないのです。

■家族状況によっても違います。独居の場合は一に住宅改修は困難です。またご本人が世帯主として生計の要であつたり、子育てや介護、家事のキーパーソンである場合には、家庭生活が大きく変わりますから大変です。一人では放つておけないと、急遽引き取り同居をはじめると、家族はどんな介護をしてよいか悩み、本人も大変混乱します。

老夫婦が二人で暮らしている場合には、二人共に痴呆症状がでている事も多く、何となく生活はできていたが、毎日同じものを食していたり、薬を取り違えて服用していたり、といった事例もあります。(記 中北 清)

## 子ども木工教室

浪速区社協

ふれあい祭り

秋晴れの清々しいお天気  
の10月25日(土)、ふくてっくの木工教室は学童保育の小学生、保育所の子ども達を相手に、ゆつたりした雰囲気の中で行われました。



6月から打ち合わせを行いました。浪速区の木材業者さんをお願いし、そこからの材料をわけていただいたので、今回の木工教室は、いぶん助かりました。この木材業者さんは、以前私が非常にお世話になった人でした。

さまざまなお木片から、お墓を作った子、かぶと虫だという子、くまさんを作るのに一人だけ怪獣だと言った5才の子、4才なのに大工に一所懸命と組んでいた子、人数は少なかったが一人一人の個性が出た木工教室でした。

参加者 有馬さん・松本さん・八木道夫さん・原田さん・長岩さん・光川。浪

速区からボランティアとして参加してくれた人。ゆつたりとさせていたいただきありがとうございます。当日を迎えるまで準備に色々大変な事もありましたが、今日の成功で苦労が報われました。(木工部 光川 環代)



阿倍野親子フエスタ

2月5日(土)午後1時から親子木工教室が行われました。この木工教室は木材を切った状態まで準備しておき、当日は木工ボード

で貼りあわせるだけの作業でした。二時半からの受付でしたが、かなりの行列で、期待の反不安もありましたが、スムーズに運び参加したスタッフも子どもたちと一所懸命取り組みました。



池島ふれあいまつり  
2月23日(日)朝から秋晴れの良い天気。恵まれ、例年のごとく池島まつりの木工教室に参加しました。実はふくてっく木工教室はここから始まったのです。

材料にも恵まれ8名のスタッフはゆつくり昼食をとる時間もない程の盛況ぶりでした。自然の丸太を生かした「汽車」「鹿」「ふくろう」の見本が目を引き、人が足を止めて見ていきます。

材料の良さも創作意欲を



杉浦さんアイデアの「い」と有馬さんアイデアの「ふくろう」に人気が集まり、どの作品も愛嬌ある楽しい出来上がりとなりました。二人の尽力でここまでこれた事により、これからの木工部の活動に大きな可能性が生まれるのではと感じました。お世話してくださったエフ・エーの長福さんに感謝しています。

参加者は有馬さん・安倍さん・原田さん・長岩さん・光川の5名でした。お疲れ様でした。(木工部 光川 環代)

西成おもちゃ 図書館。パンダ  
12月17日(水)暮れも押し迫つた木工教室でした。先方との打ち合わせを重ね、10月に有馬さん考案の「ふくろう」を180個作る事が決まっています。たが、他の木工教室の準備もあり、11月23日の池島ふれあいまつりを終えてからの準備となりました。「ふくろう」は自然木の



丸太が必要で、長居公園での自然木集め、胴体の丸太の心配と材料を揃えるだけでも大変です。有馬さんの知人の木型製作所の協力を得てなんとか間に合いました。1つ分をキットにしたものを用意し、子ども達はボードで貼って仕上げます。

始まるはずが2時間で「ふくろう」がなくなり、大変な人気でした。主催の西成区社協の方も初めてのことでしたので、うまくいくかかなり心配をされていましたが、大成功に終わりました。また来年もお願いしたいという事でした。

参加者 杉浦さん・有馬さん・安倍さん・平松さん・津田さん・光川 (木工部 光川 環代)